

活動記録書

開催日： 令和3年12月2日(木) 天候 晴	開催テーマ： 「13人の宿老」北条義時
開催場所： 鎌倉市	記入者： 横山美智男
参加人数： 会員 23名 ビジター4名(準会員1名、休会1名を含む) 計 27名	
実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など)： コース： 鎌倉駅西口時計台広場(集合)～鶴岡八幡宮～宝戒寺(前)～大蔵幕府旧跡～義時法華堂跡～義時大倉亭推定地～覚園寺～鎌倉宮(解散) 久しぶりの鎌倉、前日とは打って変わり風もなく晴天、穏やかな初冬の寺社巡り。鎌倉駅西口の時計台広場に集合、来年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公、北条義時ゆかりの史跡を巡った。 北条義時は源頼朝のご寝所番を務めた頼朝の最も信頼する側近の一人。頼朝の死後13人の合議制の一員となり多くの権力闘争に勝利して、頼朝の遺志を継ぎ最終的には武家政権成立をなし遂げ、鎌倉幕府の最高権力者となっていく。 13人の合議制のメンバーは①比企能員②梶原景時③和田義盛④中原親能⑤二階堂行政⑥大江広元⑦北条時政⑧北条義時⑨八田知家⑩足立遠元⑪三浦義澄⑫安達盛長⑬三善康信。頭文字で「ヒカワナニオ ホホハ アミアミ」と覚えよう。 まずは鶴岡八幡宮に向かう。源頼朝が由比郷鶴岡に石清水八幡宮を祀ったのが鶴岡八幡宮の始まり。頼朝は治承四年(1180)に鎌倉に入り、この若宮を現在地に遷座させた。建久二年(1191)3月の大火で社殿を焼失後に、再び、石清水八幡宮を勧請して本格的な神社体制とした。鶴岡八幡宮は、武家社会の精神的、社会的中心であり様々な歴史を刻む。実朝暗殺の黒幕には、北条義時をはじめ諸説あり。暗殺の舞台とされる大銀杏は数年前の強風で倒れ、近くに根元の切り株を移植しているが、「ひこばえ」が見事に黄葉し強い生命力とともに歴史の重みを感じる。 東鳥居を出て大蔵幕府旧跡あたりへ。鎌倉入りした頼朝は、寝殿造りの屋敷を大蔵の地に建造。四方に門があり、今でも西御門、東御門は地名として残る。その後、頼朝は諸々の役所を設置し幕府の形を整えた。宇都宮辻子に移すまでの45年間、武家政治の中心となった。 次に義時法華堂跡へ向かう。途中の宝戒寺のある場所は、北条氏歴代得宗家の屋敷があった北条一族の拠点。『吾妻鏡』によれば、義時法華堂は源頼朝の法華堂と並んで東の中腹に建てられ「新法華堂」と呼ばれた。平成17年(2005)の発掘調査により四周に庇が巡らされた正方形の三間堂の礎石建物の跡が発見され、義時法華堂と推定されている。頼朝の法華堂に並んだ場所に建造されたことは、頼朝とともに武家の創始者として評価され、幕府によって権威化が図られたことを明示する。鎌倉時代末期には焼失後途絶えたようである。 二階堂大路の近くは『吾妻鏡』などが記すように北条義時の「大倉亭」など幕府要人の屋敷地が広がっていたと推定される。平成28年(2016)などの発掘調査で鎌倉時代の溝、土坑などがみつかると。義時の居住地は諸説あるが大御所(大倉幕府郭内)に居住していたと思われる。 最後の覚園寺は、創建永仁四年(1296)、開基は北条貞時で義時が建てた大蔵薬師堂が前身とされる。九代執権北条貞時は元寇後に本格的な大寺の建立を発願し、七堂伽藍を嘉元四年(1306)に完成、覚園寺と命名。最初のお堂は焼失。現在の薬師堂は足利尊氏によって再建され、梁牌には文和三年(1354)に書いた尊氏の文字が残される。その後、江戸時代に再修理された。愛染堂にお参り後、薬師堂にて將軍実朝暗殺に係る義時と戌神将と白い犬の話などを拝聴し、等身大の12神将および薬師三尊を拝観。境内の紅葉も見ごろで楽しめた。鎌倉宮まで引き返し解散。	
参加者の状況・意見など 天候にも恵まれ今年度初の鎌倉探訪は無事終了。ビジター4名の参加は大河ドラマ人気か、特筆もの。終了30分遅れは今後の課題か。	
次回の予定： テーマ 「霊峰富士と鎌倉の福神」 令和4年1月6日(木) 10時 鎌倉駅西口時計台広場集合	